

トライアスリート、今年も鋭気

トライアスリートの塩野絵美選手(31)は東京ベルデイ・トライアスロンセクションチーム、写真中央が5月31日から6月9日まで10日間、トレーニング合宿に来町しました。



旭岳に向かう道道旭川旭岳温泉線の急勾配な道路や、「平地でノンストップの長い練習コースは北海道」というとおり、信号がなく適度な勾配差が連続している道路は、1日100キロから150キロという長距離のバイク練習に最適なコースの連続です。今年も第27回全日本トライアスロン宮古島大会(4月24日、沖縄県宮古島)で女子総合優勝(8時間39分19秒)し、その好調さを韓国大会へも持続して結果を出すのが目標。

7月3日開催の済州国際アイアンマン・コリア大会出場に向けて最終調整のため来町しました。旭岳に向かう道道旭川旭岳温泉線の急勾配な道路や、「平地でノンストップの長い練習コースは北海道」というとおり、信号がなく適度な勾配差が連続している道路は、1日100キロから150キロという長距離のバイク練習に最適なコースの連続です。今年も第27回全日本トライアスロン宮古島大会(4月24日、沖縄県宮古島)で女子総合優勝(8時間39分19秒)し、その好調さを韓国大会へも持続して結果を出すのが目標。

ユーを交互に繰り返して、徐々に体調づくりに持っていけます。旭川市消防職員ら消防職員のチーム「HANZO」メンバーが併走役をかって出有効なトレーニングをこなしたようです。塩野選手ら東京ベルデイ・トライアスロンセクションチームは8月、合宿3年目でこれまで最多の約10人が再び来町します。

新規農業就農者が町内に誕生しました。6月8日、東川農協青年部(青木健太郎部長)が主催して東川町農協大ホールで激励会を開きました。

新規就農者激励会、期待いっぱい



18歳から38歳まで9人。高校、農業大学を卒業後すぐに家業を継いで就農する方、Uターン就農する方、札幌市内からまったく異業種からの新規就農者も。女性の後継者も昨年に続いて2年連続で誕生しました。板谷重徳東川町農協組合長は「ここ5年以上、新規就農者が毎年6、7人

トルまで上がり、残雪が残る姿見周辺の眺望にびっくり。南国・タイで見ることでできない高山の風景と一面の雪景色に「ウワーツ、すごい、冷たい!」と感嘆。東関東大震災後低迷している北海道観光の活性化に向けて観光客需要の回復を目指す企画です。雪と高山が珍しく、大雪山など北海道の山岳観光需要は高い、ということでした。



誕生している。新しい東川の農業をどう変えていくのか、今後の活躍を応援したい」と激励しました。松岡市郎町長は「今や町内で40歳未満の就農者が50人を越えて若い農業者が活躍する素晴らしい時代になった。農業は今、最も近代的で最先端をいく産業になった。国民の命を守る産業と自覚して取り組んでほしい」と農業を選んだ新しい仲間をエールを送りました。(関連記事、12ページを参照)

エキノコックスに要注意、と予防講演会

エキノコックス症予防の基礎知識を知ってもらおうと町は5月25日、町内在住の写真家・獣医師の竹田津実さんを講師に、農村環境改善センターで「キタキツネとエキノコックス講演会」を開きました。



「ほとんどのキツネは農家のそばで生活している。主食は農家の残飯で、猫のえさをとったりもする。1匹のキツネの狩場は約3キロメートル四方で、5千300匹もネズミを捕って食べる」などと生態を解説しました。

に毎年駆虫薬入りのえさ散布を行えば効果的」などと話しました。エキノコックス虫はネズミの肝臓に寄生し、キタキツネ、犬などを媒介してヒトに経口感染します。ヒトに感染すると肝臓に寄生し、潜伏期間10年から15年を経て重い肝機能障害を引き起こし、死に至る場合があります。

感染予防のため、町は今年から農家地区で駆虫薬入りえさの散布を始めました。

「大きく育てて」と組合員が今年も植樹

5月28日、東3号北6線の町有林で、2年目の「コープ未来(あした)の森づくり」植樹祭がありました。生活協同組合コープさつぽろ(札幌)の社会貢献事業として昨年からは町でも取り組みが始まり2年目。生協組合員の親子30人が参加して、町有林約20アールにイタヤカエデ、ナナカマドの苗木を200本ずつ植栽しました。



青空が広がり、大雪山の残雪がまぶしくくっきりと見えるさわやかな日和になりました。

になりました。お母さんと一緒に訪れた幼児は、自分の体より大きなスコップを抱えて、一生懸命に苗木を植え、大きく育つようお願いしました。「未来(あした)の森づくり」事業は、買い物のにきにレジ袋を辞退したお客さん1人について0・5円ずつを積み立てて原資を作ります。5年間森づくりをする資金にしています。二酸化炭素の排出を減らして地球温暖化を防ぐ運動に役立てよう、という取り組みです。昨年10月について2回目の植樹となりました。

インターネットのトラブルに注意

6月20日東川中学校で旭川東警察署生活安全課の政岡正明少年係長が「インターネット、携帯電話のトラブル」と題して犯罪に巻き込まれないよう講演しました。

「第61回社会を明るくする運動」に呼応して、旭川地区保護司会東川支部(松岡洋信支部長)が主催しました。近年小、中学生の間でも利用が進ん

でいるパソコンのインターネット接続携帯電話の利用実態について危険性とトラブル回避の注意点を指摘しました。「小学生が課金方式のネットゲームで10万円も使ってしまった」「携帯電話で知り合った男に写真を撮られ、脅されて男の風俗店で働かされていた」など、犯罪に巻き込まれる危険性が高い、などと実例を示しました。



「畑の縁(へり)の草にキツネの体毛がついている。農家の人は、草に触れた衣類で家の中に虫卵を持ち込み家の中に広がってしまう」「近隣町と一緒に